

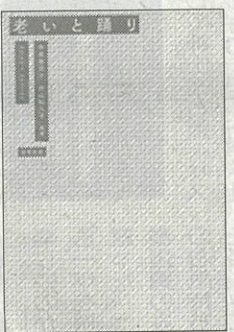
中島 那奈子・外山 紀久子編著
老いと踊り

本書に類書はない。老いについて論じた本もあるだろうし、「踊り」について論じた本もあるだろう。しかし両者を同時に論じた本はまず見当たらない。アンソロジーである本書は、決して若くないイヴォンヌ・レイナーや花柳寿南海などの一級のダンサー、踊り手をはじめ、やなぎみわやレノラ・シャンペンといった現場の間、鎌田東二や貴成人などの理論の先鋒、そのほか東西文化と高齢妙齢のはざまに在るさまざまな人間の貴重な生の声を届けている。

貴重な生の声を届ける

「老いと踊り」を同時に論じる

加藤 有希子



A5判・400頁・4800円
勁草書房
978-4-326-80060-5
TEL. 03-3814-6968

「老い」について論じていることは、超高齢化社会の日本に生きる私たちにどうしては言ってもなく喫緊の課題である。この問題が私たちの前に浮上ってきたのはごく最近のことだ。老いは致命的な疾病、戦争、飢餓が身近ではなくなった第二次大戦後の先進国特有の問題

思想

ゴンドウウツシと人間にかいなるらじ。では一方、「踊り」はどうだろうか？本書では、八十歳の花柳寿南海が人間国宝になり、小野小町が老女として描かれている日本舞踊や能の世界をた経験値が極めて重視される日本文化の特徴を指摘する。しかし同時に、現代における「老い」の評価は必ずしも老いの肯定ではないことも描かれる。「踊り」の世界から一歩離れると、老いても元氣、若々しさ、ピンピンコロリなどの極端な推

点が含まれている。江川かれた「身体」をめぐる力強く進められる解説は、従来のどの説明より読者を啓発するものと言えるかもしれない。興味深いのは、著者が時にドゥルーズのスピノザ解釈から静かに離脱している箇所である。例えば、理性知および共通概念についての説明を見ると、江川は、スピノザが言う感情ないし精神の受動から、理性知ないし第一種認識への移行を、無転」としている(第六講義)。受動的な感情からその受動性が差し引かれることで、感情は能動的な理性へとそのまま反転するというのが、こ

ば、見る者に「湧き出る涙」を流させるのが老いと踊りの饗宴である。しかし本書は老いと踊りを耽美主義では終わらせない。本書のラムゼイ・ハートも社会学的背景から論じているように、最近の老いへの関心は、消費の中核であるベビーブーマー世代(日本においては団塊の世代)の老化によるものであり、「老い」の一大市場が出現しつつあるという消費の文脈からの指摘を忘れない。そのことは厄ヶ崎彬

ら持っていた編者である中島那奈子の慧眼によるところが大きい。中島は「老い」が神聖視すらされる日本舞踊の師範でもありながら、ドイツ、アメリカと西欧諸国に学び、「老い」が忌避される環境も同時に味わってきた。本書はそうした東西の文化衝突、そして今、私たちがかつてないほどに「老い」というものを直視しなければならぬ現実、さまざまな局面で息苦しさ・不自由さを感じながらなおかつ創造性を発揮しなければ経済的に生きていけない昨今の私たちのための「芸術」の価値、を改めて問い直してくれる。本書はこれらの問題に簡単に答えを与えるような愚はしない。さまざまな論者からの絡み合い、もつれ合う声は、エコーよろしく、作品は開かれていくこと、問いは立てることから始まることを教えてくれる。(かとう・ゆきこ)埼玉大学准教授)

★なかじま・ななこダンス研究者。日本舞踊師範。二〇一七年北米ドラマトゥルク協会エリートハイブ賞特別賞受賞。一九七八年生。

★とやま・きくこ玉田大学大学院人文社会科学部教授。一九五七年生。

★なかじま・ななこダンス研究者。日本舞踊師範。二〇一七年北米ドラマトゥルク協会エリートハイブ賞特別賞受賞。一九七八年生。

鈴木 透著

食の実験場アメリカ



A5判・240頁・1800円
勁草書房
978-4-326-80060-5
TEL. 03-3814-6968

たアメリカは、イギリスのみならず、非西洋や移民の食文化の伝統から国民的食文化を生み出すという、実は想像以上に複雑な過程を経て独自の食文化を築き上げたのだ(同)という。本書は、「食」の面からアメリカの歴史を辿ったものである。著者は次のようにいう。「アメリカ食文化の歴史は、この国の異種混交的背景が産業社会という器の中で新たな実験へと展開されていった軌跡でもある(同)。

え。そこから、ファーストフードがアメリカ社会を席巻するに至った過程を辿るのが、第二章「ファーストフードへの道」。ドイツに起源を持つハンバーガー、あるいはシリアルやコーラ(当初は健康的なイメージで売っていた)が、どのように国民食となったのか。第三章は、そうした動きに対する反動を描く(「ヒッピーたちの食文化革命」)。(スローフード)や(食への安全意识)といった現代に繋がる問題を、ヒッピーたちはいち早く考えていた。有機農業や協同組合といった取り組みについても同様である。すべてを競争原理・効率性の面のみから捉えてはいけない分野がある。著者は、教育とともに食

★とやま・きくこ玉田大学大学院人文社会科学部教授。一九五七年生。

★とやま・きくこ玉田大学大学院人文社会科学部教授。一九五七年生。

て、感情は能動的な理性へとそのまま反転するというのが、こ

★えがわ・たかお立教大学現代心理学部教授。専門は西洋近現代哲

序章・終章を合わせるナックのポップコーンはと第六章構成で組み立てられている。1章では植民地時代に遡り、先住イン

すべてを競争原理・効率性の面のみから捉えてはいけない分野がある。著者は、教育とともに食

すべてを競争原理・効率性の面のみから捉えてはいけない分野がある。著者は、教育とともに食

すべてを競争原理・効率性の面のみから捉えてはいけない分野がある。著者は、教育とともに食

すべてを競争原理・効率性の面のみから捉えてはいけない分野がある。著者は、教育とともに食

特別企画 夏の政治決戦

岩盤に穴を開けた未婚のひとり親支援 小川光治
公益財団法人「あすのば」代表理事

庶民のために 若者の意見を取り入れる公明党の姿勢 室橋祐貴
一般社団法人「日本若者協議会」代表理事

地道な努力の継続が政治を前に進める 川上和久
国際医療福祉大学教授

自公は日本政治で唯一安定した連立の枠組み 中北浩爾
一橋大学大学院教授

「初恋」お父さん、チビがいなくなりました」で映画初共演
五〇年連れ添った夫婦の孤独と純愛を描く
倍賞千恵子 藤竜也

池田思想を

東アジア民圏

佐藤優 とうまさる

三月の空を 見上げて

戦災孤児から 児童文学作家へ 漆原智良

新版 日蓮仏法と池田大作の思想

池田思想の本質に迫った画期的な論考。 松岡幹

1945.3.10(東京大空襲)と 2011.3.11(東日本大震災)を超えて。 児童文化功労賞受賞作家が、